

出席者

菊池・伊藤（正）、伊藤（貞）、久保田各評議員

校長、副校長、事務長、総務・教務・生徒・進路各部長、各科長

計 14 名

(1) 開会（副校長）

(2) 挨拶（校長）

本校の教育活動のに対するご支援、ご協力への御礼。

1 回目は学校経営計画を示し、今回は一年間の自己評価の結果と分析結果の報告が中心となり、来年度の学校経営計画の指針となるので忌憚のないご意見を頂戴したい。32 年度に予定されている宮古商業高校の合併については、今年度各学校の代表によるワーキンググループの検討を 4 回行っている。今後も各校の施設を活かし統合のメリットを広げていくための協議を継続していく。

(3) 報告

ア 今年度の宮古工業高校の活動について（校長）

①平成 29 年度 学校評価報告書のうち評価指標資料から。

学校評価報告書（案）は評価指標資料を抜粋して県への報告の素案となる。

目指す学校像を実現するための大きな課題のひとつは学習活動の充実である。専門教科の基本となる基礎学力が必要。今年度は教師の授業力向上を目指すために 100%互見授業を行う事が達成されがこの次は生徒の能力をいかに引き出すかが大きな課題となる。校訓、学校の教育目標が示されているかは浸透しつつある。地域との関わりは形成されつつあるが、PTA 総会、学年 P T A の出席率の低調さを含め、保護者からの信頼は少し低くなっている。

②校報山ぼうし（ダイジェスト版）から学校活動の報告と新聞記事の報告。

イ 学校評価について（各部、各科）

学校自己評価資料により説明

①生徒（生徒指導部）

昨年度と比較して大きく変動したものは、学校の教育目標が説明されているが B から A に同様に先生は親身になって応じてくれるが上昇。また、部活動の活性化が微増。学習についてわかりやすい授業、遅れがちな生徒への対応等教師側の力が試される項目になっている。

②保護者（総務部）

昨年度と比べ、全体が 0.03 P 下がっている。4 の不十分の評価が増えている。宮古工業の生徒は礼儀正しいとのポイントが下がっている。保護者の学校に行った回数が 0 回 1 回の割合が多い。

③教員（副校長）

震災から約 7 年が経過し復興工事もだいぶ進んで来ている。校舎の周りも改良工事で作業車や迂回路による通学路の変更があり、生徒部中心に登校指導を行い、幸い事故もなく登下校を行っている。あと、1, 2 年かかると思う。

学校間交流として金沢北陵高校とは震災後 5 年間と期間を決めて行って、今年度で終了。その他の交流として来年度 4 月にマレーシアの高校との交流が予定されている。今年度工業祭の年で天候の悪い中来校者 580 名が来て頂き、学校の授業や活動の内容を知って頂く良い機会となった。教職員による学校評価の平均点は昨年度と変わらない。新しい項目として 16、18 番の項目が加わっている。小中との出前授業は津波模型班が行っているが、学校全体での取り組みが課題となる。地域への情報発信はやまぼうし、HPで行っている。基礎学力の向上の面では、授業評価アンケートでも学年が上がるにつれ家庭学習が出来ていない。いかに家庭学習を定着させるかが課題。追加された項目のいじめについては研修会を開催し、情報共有の徹底を図った。

(4) 意見交換

【評議員】

教育目標が説明されていると言う項目で、生徒評価はA、保護者はBの原因は？

【総務部長】

校長はPTA等の集まりでは話されているが、参加されていない保護者に伝わっていないことも考えられるが、やまぼうし等で発信されている。

【評議員】

PTA活動等で学校に行った回数は昨年度はどうだったのか？

【副校長】

0回80名、1回44名、2~3回44名、4回以上15名で昨年度よりも減っている。

【校長】

PTA総会の出席率が低い。以前の学校では総会の前にダンスの授業を公開し、出席率を高める工夫もしてきた経験がある。本校は1学年PTAの出席率が低く7名の参加。2年生は修学旅行、3年生は自動車学校で出席率が多少確保出来ているが、1年生が本当の姿であると思う。せめてやまぼうしだけは確実に持ち帰って欲しいし、唯一学校の様子がわかる情報と言って頂いている保護者もいる。

【副校長】

以前はPTA総会を休日や市内を会場にして実施した時もあったが、それでも出席率の向上に繋がらなかった。

【評議員】

評議委員になって学校に訪問させて貰っているが、学校側から保護者へのアプローチは熱心に行っていると感じる。保護者の意識の変異なのか時代なんのでしょうか。

【校長】

2学年の保護者進路説明会を先日開催したが、景気が良いことが影響したのか、例年よりも低い出席率であった。

【評議員】

生徒のアンケートに授業に遅れたのに「すみません」の一言もない先生が居るという記述。また、「手伝いますか」の一言がない。これは会社においてもだんだん薄れてきていることで有り、先生方が率先して見本を見せて貰うことも必要。言われたことしか

しない社会人が増えている。

【副校長】

我々教員が率先して行って、手本となる行動を実践したい。

【評議員】

多忙化解消のために中学校でも取り組んでいるがなかなか解消されないもの事実。中学校では休養日を週2日設けているが、なかなか大会等の都合で実践できていない事もある。高校側の取り組みはどうか？

【生徒部長】

週1回の休みを取るように実践している。月曜日を休みにしている部活が多いのではないか。

ウ、進路状況説明

進路部長から進路状況の説明

【評議員】

当社に、大学を終わって中途採用した他校の卒業生が居たが、都会との差や、勤務状況の差により早々に退社した。やはり、高校生を4年間じっくり育てた方が良いとの結論に至った。津軽石中学校に進路状況を生徒に見せて貰って、早めの意識を持って貰った方が良いのではないか。

【評議員】

震災以降地元への就職率が下がっているように感じるが、その原因は？

【進路部長】

景気や、生徒保護者の意識の変化だと感じる。

【進路部長】

震災直後は地元は自分が支えるといった生徒が多かったが、復興が進み確かに生徒保護者の意識が変わってきている。ただ、本校の一番の売りは、地元の技術者の育成であり、我々教員も学校の存在意義を徹底させていかなければならない。

(5) 平成30年度学校評議委員について

【副校長】

2名評議員の方には3回の任期を努めて頂きありがとうございました。

(6) 閉会の言葉